

活 用 事 例	京都市立桃陽総合支援学校	大杉仁彦教諭
担当：北村あゆみ教諭、西村悠里教諭、児島公子教諭		
活用事例タイトル	読み書き障害の事例	
対象授業科目/活動	国語	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p>教科名：国語</p> <p>単元名：感じたことを文章にしよう 鑑賞文を書く</p> <p>目的：観点を決めて作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書く。 書いた文章を互いに読み、作品についての意見を述べる。</p> <p>対象学年：中学部2年生</p> <p>参加人数：5名</p> <p>実施時期：平成25年1月28日～2月1日</p> <p>ICTの使用の局面：文章を書くことが苦手な生徒や意見が書けない生徒が、協働学習システム（コラボノート）を活用し、他者の書き方や意見を参考にする。</p> <p>手で書くと、文字や言葉がうまく書けない生徒や時間がかかる生徒が鑑賞文を書く。</p>	
ICT活用により期待できる効果 ICT活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を書くことが苦手であったり、書けなかつたりする生徒が、他者の書き方や意見を参考にして書けるようになる。 ・手で書くと、文字や言葉がうまく書けない生徒や書くことに時間がかかる生徒が、パソコンを使用して文章が書けるようになる。 	
評価、振り返り（活動の評判や児童・生徒の声など）	<p>〈良かった点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見などを言ったり書いたりすることが苦手で、普段授業に参加しにくい生徒が、他者の書き方や意見を参考にするすることで、自分の意見を書くことができた。 ・手で書くと、文字や言葉がうまく書けなくても、パソコンを使用すると機械が変換してくれるということや、文の修正や追加といった編集作業が容易にできるので、文章を書くことができた。 ・自分の書く文字にコンプレックスを持つ生徒も、活字で表示されることでのびのびと書き、発表することができた。 ・電子黒板を使用すると、説明の時や発表の時に視覚的支援になる。 ・電子黒板と協働学習システムを活用することで、他者の意見を皆で共有して見ることができた。 ・鑑賞文を電子黒板に映すことで、全員が顔を上げて発表を聞くことができていた。 <p>〈工夫・改善が必要な点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字が小さいと発表時に見えにくい。 ・パソコン入力が苦手な生徒は、文字入力に少し時間がかかる。 	

<p>その他 (関連 WEB サイト等ありましたらご記入ください。)</p>	<p>文部科学省「学びのイノベーション事業」、総務省「フューチャースクール推進事業」 http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/toyo-y/future_school/index.html</p>
--	--

国語科 授業デザイン

日	時：平 25 年 2 月 1 日（金）第 3 校時（10 時 40 分～11 時 30 分）
学	年： 中学部 1 年
授 業 者：	西村 悠里
授 業 場 所：	本校 中学部 1 年教室

児童生徒の障害	
<input checked="" type="checkbox"/> 病弱	（ 5 名：内 発達障害 3 名 ）
<input type="checkbox"/> 病弱・知的	重複障害（ 名 ）
<input type="checkbox"/> 病弱・肢体不自由	重複障害（ 名 ）

1. 単元（題材）名

感じたことを文章にしよう 鑑賞文を書く

2. 単元（題材）の目標

- ・ 観点を決めて作品を鑑賞し、その魅力を伝える文章を書く。
- ・ 書いた文章を互いに読み、作品についての意見を述べる。

3. 単元（題材）の指導計画

指導計画（全 4 時間）

時	主な学習活動・内容	主な使用機器
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞文を書くときの観点について学習する。 ・ 観点を決めて、鑑賞する練習をする。 「鑑賞文を書くときの観点」に沿って、「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」の絵から感じ取れることや読み取れることを付箋で書いていく。（皆で 1 ページ）	IWB, TPC, 協働学習システム
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の中の絵から好きな作品を選ぶ。 ・ 選んだ作品の魅力を一言で表す。（皆で 1 ページ） ・ 観点を決めて鑑賞する。（一人 1 ページ） 前回練習したことを生かしながら観点を決め、作品から感じ取れることや読み取れることを付箋で書く。	IWB, TPC, 協働学習システム
第 3 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞文を書く。 観点を参考にし、書きだしを工夫したり、問いかけを入れたりするなど、効果的な表現を考えて鑑賞文を書く。	IWB, TPC, 協働学習システム
第 4 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞文の続きを書く。 ・ 鑑賞会をする。（発表） ・ コメントを付箋で書く。（本時 4 / 4） 	IWB, TPC, 協働学習システム

4. 本時の目標

- (1) 自分の伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を持って書くこと。
- (2) 話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方などに注意して，わかりやすい発表を行うこと。
- (3) 書いた文章を互いに読み，作品について意見を述べること。

5. 本時の情報通信技術（ICT）活用

活用する場面	・導入 ・展開 ・まとめ
活用する者〔目的〕	・児童・生徒〔・一斉学習・個別学習・発表〕 ・指導者〔・課題提示・発表〕
活用するコンテンツ	協働学習システム
活用する機器	・IWB ・TPC

6. 本時の展開

	学 習 活 動	活用機器 (活用者)	指導上の留意点・支援内容 【ICTによる支援】
導 入	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個別学習</div> ①鑑賞文の続きを書く。 ②推敲する。	IWB(指導者), TPC(生徒)	【TPC, 協働学習システム】 ・他者の書き方などを参考にして，鑑賞文を書く。 ・文章の書き方や漢字などが間違っている場合は，自分で推敲したあとで指導する。
展 開	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一斉学習</div> ①鑑賞会を行う。 ・一人ずつ鑑賞文を発表する。	IWB(指導者), TPC(生徒)	・話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方などに注意して，わかりやすい発表となるよう支援する。 【IWB, 協働学習システム】 ・発表する生徒の鑑賞文を画面に出し，全員が顔を上げて発表を聞けるよう支援する。
ま と め	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">個別学習</div> ①コメントを付箋で書く。 ・感想や，ものの見方や感じ方，表現の仕方などの良かった点について書く。 ②コメントを発表する。	IWB(指導者), TPC(生徒)	【TPC, 協働学習システム】 ・コメントはアドバイス機能を使い，書いた文章があとで読み返せるようにする。 ・他者の表現の工夫に気づけるよう助言する。 【IWB, 協働学習システム】 ・自分の鑑賞文を読んだ人に作品の魅力が伝わったか，他者が書いてくれたコメントを確認する。

7. 本時の評価（評価の観点・観点別の評価を含む）

- （1）自分の伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を持って書くことができたか。
- （2）話す速度や音量，言葉の調子や間の取り方などに注意して，わかりやすい発表を行うことができたか。
- （3）書いた文章を互いに読み，作品について意見を述べることができたか。

8. 準備物

IWB, TPC, デジタル資料（協働学習システム）